

# ●一般演題Ⅰ 「排尿障害・男性不妊」

座長：奈良県立医科大学泌尿器科学教室 平尾 佳彦

## 1. 咽中灸癆を認めない神経性頻尿患者に対する半夏厚朴湯の1例

日本大学医学部内科学系統統合和漢医薬学分野<sup>1)</sup>  
医療法人山口病院 (川越)<sup>2)</sup>

○奥平 智之<sup>1) 2)</sup>、矢久保 修嗣<sup>1)</sup>、木下 優子<sup>1)</sup>  
安藝 竜彦<sup>1) 2)</sup>、種倉 直道<sup>1)</sup>、小泉 久仁弥<sup>1)</sup>  
田中 均<sup>1)</sup>、山根 理子<sup>1)</sup>、濱野 公成<sup>1)</sup>  
加瀬 幸子<sup>1)</sup>、丸山 綾<sup>1)</sup>、山口 千枝<sup>1)</sup>  
青木 浩義<sup>2)</sup>、岩原 千絵<sup>2)</sup>、佐久間 将之<sup>2)</sup>  
芝 恵美子<sup>2)</sup>、芹澤 秀和<sup>2)</sup>、高井 良昌<sup>2)</sup>  
竹野 良平<sup>2)</sup>、根本 安人<sup>2)</sup>、若槻 晶子<sup>2)</sup>

【緒言】咽中灸癆を認めない神経性頻尿の患者に対して、半夏厚朴湯が奏功する症例をしばしば経験する。代表的な症例を患者の同意を得た上で匿名性を配慮し報告する。

【症例】40歳代前半、女性

【初診時主訴】頻尿、不安発作

【家族歴、既往歴】特記なし。

【現病歴】3年前より、動悸、過呼吸、発汗等を伴う反復性の不安発作があり、近医にてパニック障害と診断されFluvoxamineを処方されていたが効果不十分のため中止。尿意にて一日に20回以上トイレに行く。泌尿器科にて精査を受けるも異常なし。漢方治療を希望して来院。

【現代医学的所見】身長160cm、体重52kg。血圧119/73mmHg。脈拍96分/分・整。体温36.5℃。血算・血液生化学、尿検査で異常なし。

【漢方医学的所見】脈候：沈弱。舌候：湿潤、淡紅色。胖大し歯痕を認め、軽度白苔を被る。腹候：腹力やや軟、腹部やや膨満。心下痞鞭、臍上悸、心下部振水音を認め、胸脇苦満、圧痛なし。下肢冷たく、軽度浮腫あり。咽中灸癆、排尿痛、残尿感、口渴、多飲水なし。

【経過】半夏厚朴湯エキスを試み、2週間後、尿意のために日中にトイレに行く回数が一日3～4回に減少。以後、頻尿は認めず、不眠、抑うつ気分、易疲労感がみられなくなった。不安発作は残存するものの軽度になり月0～1回になった。

【考察】半夏厚朴湯の出典の金匱要略では「婦人咽中如有灸癆、半夏厚朴湯主之」とだけ記載され、適応として咽中灸癆（咽頭部異物感）は古来から重要な所見とされている。しかし、本症例のように咽中灸癆がない例でも、神経症性頻尿が気滞を示唆する所見の一つと考え同剤を選択したところよい結果を得た。咽中灸癆が、「ストレスから気滞が咽頭部に起こり、咽頭の過緊張、咽頭粘膜の過敏状態をもたらした結果にみられるもの」と仮定すると、本症例では、膀胱においても咽頭部と同様に気滞がありそれが、膀胱の過緊張、膀胱粘膜の過敏状態をもたらし、頻尿になったと考えた。

【結語】咽中灸癆を認めない神経性頻尿の患者に対して半夏厚朴湯が奏功する例があることが示唆された。

## 2. 過活動膀胱に対する牛車腎気丸の治療効果

国際医療福祉大学、化学療法研究所附属病院 泌尿器科  
堀場 優樹

【緒言】過活動膀胱に対する治療薬は一般的に抗コリン薬が主体となりその薬剤も様々なものがある。しかし、過活動膀胱には合併する病態も複数あり抗コリン薬のみで十分な治療効果が上げられない症例も決して少なくない。また副作用により内服続行が困難な症例も見受けられる。今回そのような過活動膀胱の治療に対し牛車腎気丸を投与しその効果につき検討を行った。

【対象】過活動膀胱と判断し治療を行った18症例、平均年齢73.5歳（男性16例、女性2例）である。合併疾患は前立腺肥大症12例、前立腺癌2例、慢性前立腺炎2例、神経疾患2例であった。初期治療は $\alpha$ ブロッカー単独投与2例、抗コリン薬単独7例、併用9例。初期治療に十分な効果が得られなかった症例に牛車腎気丸を3～15週併用投与を行った。効果判定にはOABSSを用いた。

【結果】著効4例、有効10例、不変4例、悪化0、有効率は78%であった。初期治療の抗コリン薬の減量可能3例、中止可能を3例に認めた。重篤な副作用は認めなかった。

【結語】過活動膀胱治療に対する牛車腎気丸の投与は症状に対する治療効果のみならず抗コリン薬の減量にも期待できる有用な薬剤であると考えられた。